



議会だより

たてしな

第138号

平成27年1月28日



立科町スポーツ少年団柔道部 寒稽古

発行／長野県立科町議会 編集／議会だより編集委員会

〒384-2305 長野県北佐久郡立科町芦田2532番地 TEL(0267)56-2311 有線2311 FAX(0267)56-2310

E-mail gikai@town.tateshina.nagano.jp URL <http://www.town.tateshina.nagano.jp>

総務経済常任委員会

所管 総務課・町づくり推進課・農林課
建設課・会計室・議会事務局

副園

西藤 真弓
榎本 美江
小池 修二
箕輪 三江
小宮 正儀
山田 正儀

12月5日に開催した本委員会の主な質疑内容は次のとおり。

質疑Q&A

条例改正

◎一般職の職員の給与に関する条例

Q 県勧告どおりか。独自の部分はありますか。
A 町独自の部分は無い。

Q 改定の内容は。

A 給与は4月1日からで、手当は12月1日が基準日。平均で給与月額0.27%アップ。勤勉手当は0.15%アップ。一般会計で468万円の増となる。

◎立科町一般職の任期付職員の採用等に関する条例

Q 任期付き職員は何名採用しているか。
A 3名。

Q 任期付き職員の給料基準は。

A 町独自の6区分の給料で、採用時に格付けている。

◎立科町消防団員等公務災害補償条例

Q 主な改正内容は。
A 児童手当給付法が改正され、合致する条項等の改正。

◎立科町陣内森林公園条例

Q 読み替え規程により指定管理者が全て行えるようになっていくが、町長による一定の歯止めは必要ないか。
A 指定管理者に管理をさせることができる

規程になっている。利用料金は、あらかじめ町長の承認を得なければならぬことになっている。

Q 指定管理者からの使用料は別に定めるか。

A 指定管理を決めている中で、条件として示し、協定を結んでいく。農ん喜村は売り上げの0.5%納めてもらう協定になっている。



補正予算

◎一般会計 補正7号

Q 歳入

A 牧場使用料減の理由は見込みより利用頭数が減った。今年馬36頭、牛26頭の受入れ。



Q 臨時福祉交付金の歳入が減額した理由

A 給付の振込業務を委託で予定していたことが、職員が行なったことにより減額となった。

歳出

Q 地理空間情報活用推進事業83万3千円の減額理由は。

A 農林水産業費に活用できる補助事業があり、一部事業を移動した。

Q 別荘管理経費設計委託料減額理由は。

A 当初本年度事業で計画していた唐松平雨水排水工事を、県道事業と一緒に平成25年度実施したため全額減額した。

Q 賦課徴収費の電算委託料329万4千円の減額内容は。

A 家屋評価システムを当初買取の計画だったが、リース契約としたため。

Q 農道維持費の増額理由は。

A 藤沢で、今年の長雨により農道の路面が流出し要望があり、補正対応とした。

Q 土木費の道路維持経費の増額理由は。

A 県の補助事業でビューポイントに指定されたところが対象。補助率3分の2、上限30万円。

Q 地域高校育成補助金の内容は。



A 蓼科高校育成のためにとの寄付金200万円が町にあり、高校育成補助金として交付していく。高校内に公立の塾が計画されている。継続した事業とした。

Q ふるさと交流館の委託料は。本年度の来場者は。

A 小規模修繕料450万円を計上。緊急の修繕費用であり場所は特定していない。

Q 平林真蒲線真蒲橋添架関係設計委託の内容は。

A 来年度工事予定の真蒲橋へ、水道・下水道を添架するための設計委託料。

◎下水道事業特別会計 補正3号

Q 農業集落排水の修繕料50万円は何か。

A 細かな修繕を行ってきたっており、これから発生した場合に備えるためのもの。

◎水道事業会計 補正3号

Q 水道の砂調査についての内容は。

A 温井湧水の砂の量を確認するため器具の取り付けと、各路線の水道管内のカメラ調査を計画。空気弁からカメラを入れて4〜5路線実施する。

社会文教観光常任委員会

所管 町民課・観光課・教育委員会
産業振興室

副園

土屋 春明
森本 信雄
滝沢 寿美
宮下 典幸
山浦 妙子
橋本 昭子

12月4日に開催した本委員会の主な質疑内容は次のとおり。

質疑Q&A

条例改正

◎立科町国民健康保険条例

Q 指定管理者にした場合、利用料金の減免についても行うことになる。減免は町で行うべきではないか。
A 指定管理として想定できるのは、野外音楽ホールとふれあいセンター。協定を結ぶ中で、町の関与が必要なものは明記していく。

◎立科町御泉水自然園条例

Q オリエンテーリングの利用料を明記した理由は。
A 団体割引は行わないのか。これまでも利用料を徴取していたが、条例に明記した。

A 団体で行う競技のため割引は行わない。

条例の廃止

◎立科町保健師修学資金貸付金免除条例

Q 今までの利用者として、この制度を利用するように努めたか。
A 過去に2名の実績があったが、時代の変遷により不要と考える。

補正予算

◎一般会計 補正7号

Q 障害者支援事業経費800万円増額の内容は。

A 就労支援Bが2名増で300万円。放課後デイの利用者が9人から18人に増となった。

Q 保育園の木製フェンスの塗装費用だが、竣工から1年少しで、剥げてしまうのは設計が不適切でないか。



A 材質がカラマツで、とげがでやすい。磨きをかけて塗装する。費用負担は協議中だが、早急の実施するため予算計上した。

Q 保育所跡地の記念碑はどこへ、どのような理由で建立するのか。

A 保育園跡地には、旧小学校の跡地である記念碑が残っており、経過が判るように同じところに建立する。

Q 風の子広場の四阿の整備事業にビューポイント整備事業を活用しているが、事業内容は。



◎介護保険特別会計 補正2号

Q 施設介護給付費1,000万円減額と、居宅介護給付1,000万円の関連はあるか。

A 施設介護給付が減額になり、居宅介護給付が増額になっているが、分析はしていない。施設利用者が減っていることはない。



A 保科五無齋の「信濃公論」という新聞が貴重なものと分かり、デジタル化と修理するための経費。2,300人。

社会文教観光委員会行政視察報告



横浜教育ビジョン

10月8日、横浜市教育委員会を訪問。

横浜が目指す「人づくり」は、学校・家庭・地域が連携して、3つの基本（知：確かな学力 徳：豊かな心 体：健やかな体）の調和のとれ、2つの横浜らしさ（公：公共心と社会参画意識 開：国際社会に寄与する開かれた心）を身に付けた“横浜の子ども”を育てている。



小中一貫教育

小中学校（小343校、中148校）の教職員が情報交換や連携、義務教育9年間の連続性を図った「小中一貫カリキュラム」に基づく教育活動を推進している。「横浜の子ども」の実現を目指し、小中学校の教職員の人的交流を促進して、「学力観」「指導観」「評価観」の共有を図り、授業改善の促進と学力向上を目指す。（平成24年度実施）

葉山町「ごみゼロ（ゼロ・ウェスト）」

10月9日、神奈川県葉山町生活環境部環境課を訪問。葉山町は人口約3万3千人 面積17平方キロ ゼロ・ウェストとは、無駄・浪費・ゴミをゼロにする。ゼロ・ウェストとは、その地域にあった方法を考え実践する。「環境負荷が低い」「低コスト」「最新技術に頼らない」「地域性を活かす」

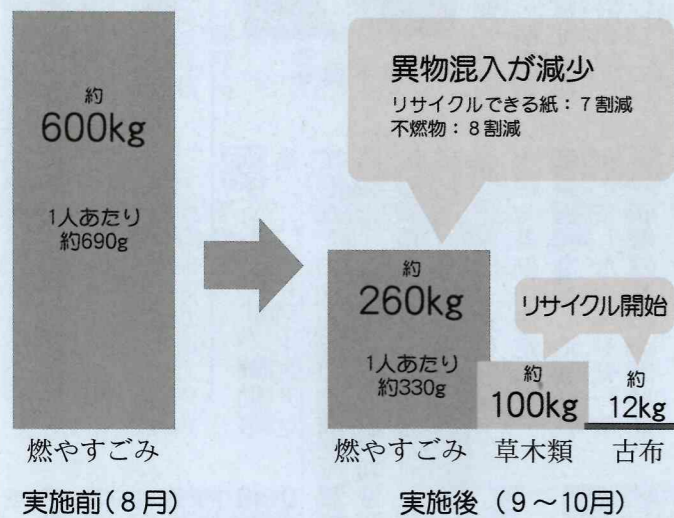


庁舎内に展示された「ごみ収集用機材」

実際の実施にあたっては、まず、いきなりゼロ目標を立てるのではなく、20年後のゼロ・ウェストを目指し、段階的な目標を設定。第1段階は、5年以内に50%減、その後、5年おきに70%減、85%を設定し最終目標として、20年後の2029年までのゼロ・ウェスト達成を目標

（平成20年6月葉山町長）

燃やすごみ量の変化（1日あたり）



資源化・減量化 ごみ半減化に向けた施策 新しい収集方式

- ① 戸別収集（ルール違反の多いごみ）平成22年9月開始
- ② 資源ステーション（主に資源物）モデル地区での先行導入（360世帯）：ごみ問題解決に住民・行政が協働で取り組む：説明会、戸別ポスティング等

総務経済委員会行政視察報告

豊丘村 「NPO加工組合 かあちゃんのお店」



総務経済委員会は、10月16日、17日、豊丘村、宮田村の行政視察を行い、視察テーマについて、現状、課題、将来展望の考察を行なった。

- 1 経過 平成12年、農家の主婦80名で「豊丘村農産物加工組合」設立。もち米、大豆栽培からスタート。
- 2 現状 会員数97名、平均年齢73歳。飲食店営業許可、菓子、味噌漬け、惣菜、缶詰、ビン詰、清涼飲料等、商品衛生許可取得。営業班を初め、6班体制で活動。設立目標である雇用の場の拡大は20名を雇用。

- 3 視察結果 JAジュース加工が全面的に受託され、平成20年の害りんごをコンポート加工した結果、学校給食に採用される。「南信州たけの子プロジェクト」発足。5団体連携の「たけの子」水煮加工成功、県内学校給食に採用。リーダー的人材と受託量、品質等をクリアする信頼性は、全員が同じ方向を向いているとの説明で理解した。

当町の現状と今後を改めて考えさせられた視察となった。

宮田村 「山ぶどうワイン醸造」



- 1 経過 平成10年、村長を議長に「中央アルプス山ぶどうの里づくり推進協議会」発足。進出企業の「本坊酒造」がベースとなり、栽培、醸造、販売の6次産業化体制構築。
- 2 現状 栽培者9名、2.5ha、リスク回避として2箇所に分散した栽培は「宮田方式」として注目中、集団営農方法は栽培組合で管理。農家の栽培ぶどうは全量、本坊酒造が高めの価格で受け入れ、共存が第一との説明が印象的であった。

- 3 視察結果 進出した企業は、水が決め手になったとの説明。当初はウイスキー醸造目的であったが、6次産業参画団体でもあったことから、ワイン醸造は難しいものではなく、出口問題は本坊酒造がベースとなったことで、取り組みはスムーズに出来たようである。栽培地は整備されており平坦地である。機械化、省力化が可能であり、参考となった。しかし、当初12名の栽培者が9名になっている状況は課題も見える。

当町の推進するワインぶどう栽培に、課題と期待を持った視察であった。

問 (株)立科町農業振興公社 補助金の効果は

答 公社は利益を上げる所ではない 試験栽培を続ける



田中三江

問 ワイン用ぶどう蓼科 牧場試験栽培の現状と、里地区の生育は。

町長 蓼科牧場は9種類を栽培、自生の山ブドウのみ元気、他種類の栽培は難しい。もうしばらく様子を見る。里地区の生育は良いがおいしいワインには年数がかかる。

と30万円余の成果は。
町長 アマニを試験栽培し蓼科牛に給餌して将来的にオメガバランスビープで販売したい。カシスはかき氷のシロップが好評。
結 「新たな荒廃地を生み出さない」「農家所得の向上を目指す」「蓼科ブランドの確立」と設立した農業振興公社、皆が待ち望んでいるソバの乾燥施設の検討を早急に。

問 新規作物247万円

問 過去4回の料理コンテスト 入選作品の成果は

答 なかなか商品化に結びつかない

結 行政で仕掛けをし、地域町民皆で協力しあい、特産物など商品化

できるよう努力し、高齢者も楽しく働ける明るい町に。

問 ふるさと寄付金の実績は

答 今年は現時点で1200名、254万円

問 ふるさと寄付金の謝礼は。

町長 寄付者が昨年の5倍に増えリングゴを対応



しきれなかった。
結 謝礼のメニューを豊富に、またホームページを上手に活用し町の宣伝・周知を。

問 町長の掲げた重点目標の成果は

答 評価や成果は町民皆さんに



宮下典幸

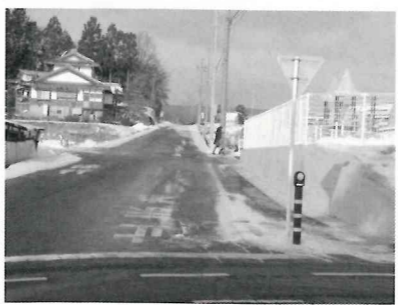
問 「子育て支援・立科教育・環境・産業振興支援・高齢者福祉・将来への投資」の評価は。

向上リフォーム補助事業、「ハートフルケアたてしな」の法人化で増床移転。
建設課長 子育て環境整備住宅、真蒲から平林への町道整備、立科町地下水保全条例の制定など。
産業振興室長 地域活性化たてしな商品券発行事業、雇用の場の確保対策など。

を。立科教育を具現化し子供たちが立科町の未来に希望と夢を持ち、個性あふれ、羽ばたき故郷に携わる教育も大事。役場内に雇用相談窓口や結婚相談所の設置、「生ゴミ0活動」で堆肥化し有機農業での農産物生産の取り組みなど提案。
課題山積のなか次期出馬は。
町長 進退の考えは至ってない。
結 財政は大事だが財源を考えない新たな発想と財源の確保施策が大事。指定管理委託や法人化への推進はチェックもできず町から離れ危惧する。信を問う必要がある。

町長 「使命」として「立科町の自立」を身命と賭して成し遂げる。
教育次長 しつけ・英語遊び・運動遊びなど幼稚園的要素を加味した保育、児童クラブは6年生まで広げ、時間延長共働き家庭への支援。
総務課長 財政の健全化で実質公債比率4.6%となり、基金残高も町債未償還高を上回る。

問 評価がない、思い考えを提案する。人口増に2子から保育料無料化と保育園周辺や通学路に歩道の確保と緑ライン



問 福祉有償運送の取り組みを

答 障害者計画・高齢者福祉計画の中で見直しを行い検討する



榎本真弓

問 福祉有償運送とは、公共交通を使用し移動することが困難な人を対象に、通院・通所・レジャーなどを目的に有償で行う車両送迎サービスのことをいう。そのため運営協議会を設置するが、当町は設置されていない、なぜか。

送迎サービスはなく、福祉車両(愛ちゃん)の貸

出しとなつていて。運転手は自分で手配することとなつていて、負担を感じている利用者もいる。福祉有償運営協議会の立ち上げは、必要と感

問 「しあわせ信州シェアスペース 銀座 NAGANO」を多様に活用しよう

答 地域活性・観光振興にどのような活用ができるか、十分検討する

町長 平成26年10月、銀座 中山道のイベントは軽井沢宿から和田宿まで東信州中山道の11宿の5市町長・連絡協議会長の立科町商工会長及び木曾路の市町村長と共にPR宣言の署名式を行った。東信州中山道11宿の浮世絵を展示し、立科産りんごの予約販売を受け付けた。今後の構想は未



市民レベルの利用もできるのが、がんばる地域応援事業は申請できるか。
町づくり推進課長 交付要件にあった活動事業であれば、その経費も対象となる。

問 今年度予算執行状況と第4四半期の主な対応は

答 概ね、予定通りの執行 概ね、予定通りの執行



森本信明

町長 概ね、予定通りの執行である。

問 職員体制について。
総務課長 少数精鋭での事業の実施とより一層の人的資源の開発・育成に努める。
問 防災意識の高揚は。
総務課長 住民との協働

による役割分担の必要性。自助・共助意識の醸成。関係機関との連携・情報の共有等、啓発推進を行い、防災意識を高める。
問 除雪体制は。
町長 小谷村に「除雪機の融通は可能か」と相談し、「緊急時の融通は可能」との返事を戴いた。正式申し入れは、今回の地震により日延べになつている。
建設課長 10cm以上の降雪を基準に、「幹線町道は委託業者による機械除雪」「生活道路除雪は町民にご協力戴きたい」

問 平成27年度予算(案)編成は

答 施策・事務事業はゼロベース 透明で説明責任の果たせる予算編成

町長 この制度が創設された平成18年ごろは、社会福祉協議会で福祉車両を使用し送迎サービスを行なつていた。また地元2社のタクシー業者もあり、協議会立ち上げには至らなかった。

町長 中山道のイベントは軽井沢宿から和田宿まで東信州中山道の11宿の5市町長・連絡協議会長の立科町商工会長及び木曾路の市町村長と共にPR宣言の署名式を行った。東信州中山道11宿の浮世絵を展示し、立科産りんごの予約販売を受け付けた。今後の構想は未

市民レベルの利用もできるのが、がんばる地域応援事業は申請できるか。
町づくり推進課長 交付要件にあった活動事業であれば、その経費も対象となる。

町長 平成26年度の予算執行状況は、予算額49億9,349万7千円に対し約6割(予備費除く)、支払い額は5割。公共工事は11月末、契約78件のうち77%(60件)が竣工。12月末に9割以上が竣工する。
主な事業では、「信州の森林事業(搬出間伐面積36haを1月上旬完成。地理空間情報整備(来年度稼働)」。ふるさと交流館「芦田宿」に設置のジオラマの政策業務等である。

問 27年度予算(案)骨子は。
町長 予算編成は第5次振興計画と基本計画を基に企画立案。選挙の年で骨格予算。真に必要な事業の3点を指示。

総務課長 子育て支援・立科教育・地域環境・産業振興・高齢者福祉・町の魅力や付加価値を高めるなどの「将来への投資」を重点項目とする。

和太鼓と 成長した私

斉藤 千春
(大城)

私は小学校一年生の時に立科町の御泉水太鼓に所属しました。きっかけは母に勧められたからです。どんな習い事をやっても長続きしなかった私が和太鼓だけはずっと続けてくる事ができました。最近、私は和太

鼓を続けてきた事にとっても感謝する出来事がありました。私は高校で応援団長をしています。その応援で和太鼓を取り入れた演奏を仲間と一緒に考えて協力し、応援のツールを完成させる事ができた時はとても嬉しかったです。高校の皆さんは、たくさん賞賛の言葉をいただく事ができました。この出来事は私の高校生活の中で強く心に残っています。そして、私が小学校一

年生の時に母に勧められて続けてきたのは、きっとこの為だったのかなと思います。実際、本当にたくさんの方々と交流する機会も多くになりました。生徒の他にも先生方や校長先生からもたくさん嬉しい言葉を言っていた事ができました。こんな出来事がありました。こんな出来事がありました。今まで指導して下さった皆さん、共に演奏してきた方々、真剣に聴いて下さった方々には本当に感謝しています。

そして、これからも私は

町かどの声

ふりかえって

松村フミエ
(町区)

平成3年に、主人の第一定年をきつかけに、神戸から女神湖へ第二の人生を過ごせばとの思いでペンション経営を始めました。途中主人が病気になる、入院、通院を繰り返しながらも、回りの友人達に助けられつつ、17年間頑張ってきた

事が出来ました。しかし病も少しづつ悪くなり平成20年に町区に引っ越してまいりましたが、昨年3月に旅立ってしまいました。

何もわからない土地柄でしたが、近隣の方々、色々な人達に助けられ、支えて頂き人と人との繋がり、温かさ優しさにふれ、どんなに心強く感謝したことかわかりません。たまに会う孫たちも中学三年生と大学一年生となり、これから希望

する道に進むことと思えます。一日々の成長がとても楽しみです。この様な環境の中、自然豊かで、美味しい水、四季折々の美しさ等、今では立科町を第二の故郷と思う日々です。

振り返って見ますと年々気候も変化し、地震、山の噴火、爆弾低気圧による豪雪等々、自然災害にはどうする事もできない。わが町は幸いにも何事もなく過ごしてこられました。これからは何時、何処で何が起きるかわかりません。町民



の人々の安心安全な暮らしと共に、魅力ある地域産業の活性化と特徴ある元気な明るい町にと切望します。



和太鼓と関わっていく事ができるような生活をしていきたいと思っています。和太鼓と関わっていると、色々な事が起こります。「だれでもやってみるときつと分かります」是非始めてみて下さい。きつと幸せになれます。

編集後記

皆様、お揃いで新春をお迎える事とお喜び申し上げます。

12月議会では、今年開かれるNPT再検討会議に向けて、日本政府に核兵器全面禁止のための決断と行動を求める意見書の提出に関する請願が出され、全会一致で採択となり、関係機関に意見書を提出する事ができました。

被爆70年の幕開けの新春です。今年こそ、核兵器のない世界目標に向けて平和のために行動を起こすときであります。地方議員は、国の政治の大きな流れに呑み込まれる事のないように、町民の皆さんのくらしと生活を守るために力を尽くします。

今年も皆さんの声をおきかせ下さい。よろしくお願い致します。

議会だよりの編集者研修にも参加し、読んで頂ける紙面づくりに励みます。こちらもどうぞよろしく。

山浦 妙子

○今後とも「議会だより」をご愛読下さい。

議会だより編集委員会

森本 信明 榎本 真弓
宮下 典幸 山浦 妙子
田中 三江 小宮山正儀